

市長賞

犯罪、非行のない社会に向かつて

堺市立 八下中学校 三年

松 本 鳩 真

私は、この作文を書くため、犯罪、非行をしてしまった人の共通点はないか探してみた。ウェブ版の福祉新聞の虐待についてのページや、法務省の令和六年度版の犯罪白書などのサイトを見てみると、全てに共通するものは見つからなかつたものの、六割の人が両親からの虐待などにより心に傷を負つていることが分かつた。そして私は、心に傷を負つた人にに対する身近な人たちの関わり方によつて犯罪や非行を未然に防げるのではないかと考えた。

なぜそう考えたのかというと、私自身が心に深い傷を負つたことがあるからだ。

私はあの頃、先生に相談してよかつたと今でも心から思つてい
る。心の傷は誰かに相談して初めて治り始め、人は前を向くこと
ができる。自分が体験したからこそ、このことの重要性を伝える
ことができる。もしあの時先生に相談できていなかつたら、ずつ
とうつむいたまま生きることになつていていたかもしれない。人を信
じられなくなつていていたかもしれない。心の傷が深ければ深いほど
人に相談しづらくなる。私はうまく立ち直れたかもしれないが、
心に深い傷を負つたまま誰にも相談できずに苦しんでいる人はど
うなるだろうか。それは悪い時には犯罪や非行といった行為をす
ることになるかもしれない。だからこそ相談しようと思える相手

それは小学五年生の頃だつた。私は普通に学校生活を送つてい
たが、ある時私の名前に菌をつけて呼んでいる声を耳にした。き
つと聞き間違つたが、実際裏では私の名前に菌をつ
けられ、とても嫌われているようだつた。しだいにあからさまに
私の周りからの対応が悪くなつていつた。あの頃は本当につら
かつた。クラスに私の居場所はないと思つたほどだ。勇気を出し、
当時の担任の先生に伝えると、一度でも私のことをそう呼んだ人

がいること、そんな場所があることが必要になつてくる。地域全体でその人を守つてあげることができれば、その人は前を向けるのではないだろうか。明日へ、未来を進もうという気持ちが、本人の心に生まれるのではないだろうか。

私は以上のことから、犯罪、非行をした人の更生よりも、犯罪、非行に走つてしまふ前に止めることにみんなが力を入れる方がいいと思う。犯罪、非行はもちろんあるよりない方がいいからだ。

この作文を読んでいる皆さん。周りを見てください。落ち込んでいる人はいませんか。しんどそうにしている人はいませんか。

もしいたなら声をかけてあげてください。その人を助けることができるかもしれない。自分のできる範囲で周りの人たちを助ける。世界中の人たちがそうすることができれば、今よりももつといい社会を私たちの手で築くことができるのではないだろうか。私自身も、これから自分のように傷ついてしまう人が出ないように、もし傷ついている人がいたら少しでも助けになれるように行動していきたい。

